

## ■■■■■■■■ 学校教育目標 ■■■■■■■■

自主性にあふれ、自律性を重んじ、  
創造性にとみ、豊かな感性をもち、  
心身ともにたくましい生徒を育む

## ■■■■■■■■ めざす生徒像 ■■■■■■■■

- |            |                |
|------------|----------------|
| ◇ 自主・自律の態度 | 1. 自ら求め学ぶ生徒    |
| ◇ 豊かな人間性   | 2. 思いやる生徒      |
| ◇ 健康と体力    | 3. 進んで心身を鍛える生徒 |

## ■■■■■■■■ 指導の重点内容 ■■■■■■■■

### [確かな学力] を身に付けるために

生徒一人一人に学ぶ意欲や知的好奇心を育て、[確かな学力] を身に付けるため、教育課程(カリキュラム)の構造を明確化し、[確かな学力] を育む手だての創意工夫を図ることが必要である。そのためには、生徒一人一人が学ぶ意欲を高め、理解を深める授業(わかる授業)の実現に努め、基礎的・基本的な知識や技能の育成(習得型の教育)と、自ら学び自ら考える力の育成(探究型の教育)の両方をバランスよく総合的に育成することをめざさなければならない。そのためには、知識・技能の習得と考える力の育成との関係を明確にする必要がある。

1. 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることを基本とすること。
2. 上記1.の理解・定着を基礎として、知識・技能を実際に活用する力の育成を重視すること。
3. この活用する力を基礎として、実際に課題を探究する活動を行うことで、自ら学び自ら考える力を高めること。

これらは、決して一つの方向で進むだけではなく、相互に関連しあって力を伸ばしていくものと考えられる。知識・技能の活用が定着を促進したり、探究的な活動が知識・技能の定着や活用を促進したりすることにも留意する必要がある。

このように、「習得」と「探究」との間に、知識・技能を「活用」という過程を位置付け重視していくことで、知識・技能の習得と活用、活用型の思考や活動と探究型の思考や活動との関係を明確にし、生徒の発達などに応じて、これらを総合的に育成することができるようにするカリキュラム・マネジメントをめざさなければならない。

## §1 必修教科

- 1 生徒一人一人が学習内容を確実に身に付けることができるよう個に応じた指導の充実を図る。特に、個々の生徒のつまづきを明確化し、個別指導やグループ別指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師の協力的な指導などの指導方法や指導体制を工夫・改善し、個に応じた指導の充実を図る。
- 2 生徒に身に付けなければならない学力を適切に設定し(到達度の明確化)、各教科の年間、ターム(期間)及び単元(題材)指導計画を作成し、それに沿った実用的な「評価規準」「判断基準」を設定し、それに対応した適切な「評価方法」「評価場面」「評価時期」を具体化した評価計画の内容の工夫改善及び充実を図る。
- 3 生徒の学習の実現状況を設定した実用的な「評価規準」を基に適切に評価活動を行い、その結果を踏まえて、目標を生徒が実現できるように指導を改善し、さらにその成果を評価するという、いわゆる指導と

評価の一体化を図った学習指導の工夫・改善及び充実を図る。

- 4 数学においては、少人数指導の工夫・改善と個に応じた指導を充実し、実生活との関連を図り、事象を数理的に考察する力を伸ばし、数学的な見方や考え方をを用いて問題を解決する能力を一層高めることができるようにする。
- 5 英語（外国語）においては、少人数指導の工夫・改善と個に応じた指導を充実し、実践的コミュニケーション能力の育成を図るため、言語の実際の使用場面に配慮した指導の充実を図る。
- 6 小学校との連携や交流を重視し、各教科のカリキュラムの系統性を十分考慮し、基礎的・基本的な内容の確実な定着、自ら学び自ら考える力の育成を推進する。
- 7 図書室を計画的、積極的に利活用し、読書に親しむ態度を育成することはもとより、コンピュータ室や視聴覚教室を計画的、積極的に利活用し、生徒の主体的、意欲的な学習活動の充実を図る。

## §2 選択教科

- 1 選択教科において、その選択幅の多種多様化（広く、浅く、短く、多く、軽く）を図り、個性を伸ばす機会を与えるとともに、生徒自身の個性を探らせ、選択能力の育成を推進する。
- 2 本校の実態はもとより、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心などを考慮し、必修教科や総合的な学習の時間などとの有機的な関連を図り、3年間全体を見通した選択教科の種類、授業時数、内容を適切に定め、生徒一人一人の個性の伸張を図る。
- 3 学習活動のねらいや方法、よりよい選択の仕方などについて理解を図り、生徒の主体的な学習意欲を喚起して、生徒一人一人の特性等に応じた、多様な学習活動が展開できるようにガイダンスの機能の充実を図る。

## §3 総合的な学習の時間

### 1 指導目標

本校の「総合的な学習の時間」は、生徒の実生活に着目し、生徒自ら求めた対象（例えば、地域社会・自然・人々など）の出会いから始まる。

生徒自ら現実社会と直接向き合い、地域や生活に根ざした課題を見だし、設定し、教科等で身に付けた、資質・能力や態度、知識・技能を総合的に活用した問題解決的な学習を通して、自らの問題として、よりよく解決していく資質や能力及び態度を育成する。

また、これらの学習を通して、自分自身を見つめる機会をつくり、卒業後の自分の進路を主体的に選択し、生きがいのある生活の実現に向けて、努力する生徒の育成をめざす。

このような目標の実現によって、最終的にはそれを自分の生き方に反映していく力の基礎となるよう教師が適切な指導を行うことを重点化する。

### 2 生徒に身に付けさせたい力

- (1) 問題解決的な学習能力（例えば、「さ・し・す・せ・そ学習」）

さ・がす学習 ⇒ し・らべる ⇒ す・じ道立てて考える  
⇒ せ・いりしてまとめる ⇒ そ・うかどうかを確かめ、試す

- (2) 意図的・長期的・協力的な学びを重視する「協同的な学習能力」
- (3) 生徒一人一人の学習のかかわりから、「自己の生き方を考える力」の基礎
- (4) 学校知と生活知の一体化

— 特別活動の年間指導計画 —

月	学校行事	生徒会活動	1年学級活動	2年学級活動	3年学級活動
4月	始業式 入学式 身体計測 家庭訪問(1年) 全校集会 花脊山の家(1年)	オリエンテーション 対面式 専門委員会(毎月) 協議会(毎週)	・中学生になって ・校内見学 ・前期学級組織づくり	・2年生になって ・前期学級組織づくり ・自分の将来について (いろいろな進路・職業)	・3年生になって ・前期学級組織づくり ・卒業生の進路に学ぶ
5月	スプリングテスト 全校集会 修学旅行 校外学習(2年) 避難訓練	あいさつ運動 生徒総会の取り組み	・話し合いの進め方 ・生徒総会への取組 ・宿泊学習(山の家) の取組	・討論の進め方 ・生徒総会への取組 ・職業の世界	・家庭学習について ・生徒総会への取組 ・修学旅行の取組
6月	休日参観 サマーテスト 全校集会 教育相談	生徒総会 リーダー講習会の取組 あいさつ運動 美化点検 ベル着強化週間	・集団の一員としての 心構え ・私の学習の仕方 ・私の将来の夢 ・健全な人間関係に ついて	・勤労の意義 ・集団の一員としての 心構え ・望ましい人間関係 ・悩みとその解決 ・望ましい人間関係に ついて	・集団の一員としての 心構え ・自分を見つめ直そう ・悩みとその解決 ・現代社会のかかえる 人権問題について
7月	全校集会 球技大会 大掃除 (夏休み)	球技大会に向けての 取り組み リーダー講習会の取組 校内美化活動	・夏休みの生活について (健康な食生活) ・安全な生活を 送るために ・中学生の体と心に ついて ・ボランティア活動の 意義	・夏休みの生活について (健康な食生活) ・安全な生活を 送るために ・望ましい男女関係に ついて ・ボランティア活動の 意義	・夏休みの生活について (健康な食生活) ・進路決定に向けて ・安全な生活を送るために (薬物・たばこなども 含む) ・性情報と性の逸脱行動 について ・ボランティア活動の意義
9月	全校集会 職場体験(2年) 体育大会予行 体育大会	遅刻ゼロ運動 体育大会の運営 合唱コンの取組 文化学習発表会の取組	・体育大会への取組 ・進路学習の意義	・体育大会への取組 ・進路の世界と将来の 生活	・体育大会への取組 ・進路決定の心構え
10月	全校集会 合唱コンクール 文化学習発表会 オースタムテスト 研究報告会	合唱コンの運営 文化発表会の運営 あいさつ運動	・合唱コンの取組 ・身近な働く人々の様子 ・健康生活	・合唱コンへの取組 ・生徒会役員の立候補者 の選出 ・校外学習の取り組み	・合唱コンへの取組 ・進路情報の活用 ・進路適性の吟味 ・進路相談①
11月	ウインターテスト 教育相談	生徒会役員選挙 後期活動開始に向けた 諸活動 美化週間 読書週間	・後期学級組織づくり ・学級のかかえる 諸問題について	・後期学級組織づくり ・現代社会のかかえる 人権問題について	・後期学級組織づくり ・現代社会のかかえる 人権問題について ・進路相談②
12月	全校集会 適応マラソン 大掃除	校内美化活動	・後期前半を振り返って ・私たちの心と体 ・冬休みの過ごし方	・後期前半を振り返って ・不得意教科の克服 ・冬休みの過ごし方	・進路の決定について ・後期前半を振り返って ・冬休みの過ごし方
1月	全校集会 避難訓練 面接指導 ファイナルテスト(3年) かるた大会(1,2年)	遅刻ゼロ運動 かるた大会の準備	・悩みとその解決 ・進路計画の意義 ・カルタ大会に向けて	・悩みとその解決 ・いろいろな進路に ついて ・職業の適性 ・カルタ大会に向けて	・進路の実現に向けて (面接練習)
2月	全校集会 ファイナルテスト (1,2年) 教育相談	ベル着強化週間	・進路計画	・自分の個性と進路	・受験への心構え
3月	全校集会 卒業式 大掃除 修了式	校内美化活動	・1年間を振り返って ・選択教科について ・2年生への準備	・進路計画の検討 ・1年間を振り返って ・選択教科について ・3年生への準備	・受験への心構え ・3年間を振り返って ・将来への設計

1 同じ題材でも、各学年の発達段階に応じた指導内容で発展的に取り組むこと。

2 学級活動の内容は、学校行事、生徒会活動との関連を図ること。

3 各学年の特色に応じた内容を十分に生かすこと。

4 全体を通して、12ヶ月及び3年間の流れをつくること。

### 3 指導事項

#### (1) 問題解決的な学習能力

生徒一人一人が、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考える資質・能力や態度を育成し、よりよく問題を解決する力及び学び方、ものの考え方などを身に付けること。

#### (2) 意図的・長期的・協力的な学びを重視する「協同的な学習能力」

生徒が自ら求めた対象である地域社会・自然・人々などとの出会いと対話で、意図的、長期的に協力的な学びによる「世界づくり」「仲間づくり」「自分づくり」ができること。

#### (3) 生徒一人一人の学習のかかわりから、「自己の生き方を考える力」の基礎

社会性や協調性、社会・人々・自然にかかわる力、自己の生活との結び付きを考える力、自己を振り返る力、自己の意志で行動できる力など、自己の生き方が考えられること。

#### (4) 学校知と生活知の一体化

教科等で身に付けた力と実生活との結び付きである「知の総合化」、学校知と生活知の一体化を図った知の実践化の視点を大切する。

① 各教科等の特質を踏まえたかたちで育まれた多様な問題解決的な能力を有機的に関連付け、生きて働く問題解決的な能力を育成することをめざすこと。

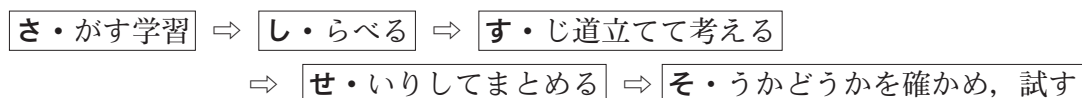
② 各教科等で習得した知識や技能や、生徒の実際の生活において、生かされ総合的に働くこと。

### 4 生徒に身に付けさせたい力（具体例）

#### (1) 問題解決的な学習能力

生徒の身のまわりで、実際の生活の上で生ずる諸課題（社会的な課題・近未来の課題）を学習場面として取り上げ、その解決のために問題解決的な学習を通して考え、経験していく学習である。（反省的思考の重視）

（例えば、「さ・し・す・せ・そ学習」）



##### ① [問題を意識する段階]（さ・がす学習）

- ・発見する力、調査する力、観察する力などから始まり、生徒の知的好奇心を喚起する。（インタレスト）
- ・モチベーションを高め、生徒ができると思う課題を設定する。

##### ② [仮説を立てる段階]（し・らべる学習）

- ・創造力、直観的なひらめき、アイデアの創出、洞察力などを働かせる。（インサイト）
- ・問題を明確にし、企画する力、計画する力、学習目標やねらいを確認する。
- ・学習の筋道を企画や計画する。（プロジェクト）

##### ③ [データを収集する段階]（す・じ道立てて考える学習）

- ・実行する力、情報を収集する力、コミュニケーションの力など、課題への追求や探究する学習活動を行う。（アクト）

##### ④ [仮説とデータを突き合わせ推理する段階]（せ・いりしてまとめる学習）

- ・論理の間違いないかを調べたりして確認する
- ・整理する力、発表する力、情報を活用する力、意味づけの力など、学習の成就感を得るとともに、学習の定着を図る学習活動を行う。（アチーブメント）
- ・情報、資料等を適切に活用し、よりわかりやすい発表の仕方・方法で発表できることを身に付ける。

⑤ [実際に観察や実験等により検証する段階] (そ・うかどうか、確かめ試す学習)

- ・生徒が学習活動を振り返り、自分の今後の学習や行動を改善・調整する。(ディベロップメント)
- ・反省と課題を実行し、自分の行動を振り返る力などを身に付ける。
- ・見落としたところはなかったか、どのような教訓が得られたか。
- ・自分の生き方が考えられる、学習活動における社会性や協調性 [社会、人々、自然と関わる力]、自己と生活を結び付きを考える力などを身に付ける。

◆ [指導のポイント]

「ゆさぶり」(アフェクト)

- ・教師が「ゆさぶり」をかけて、生徒がそれぞれの学習のプロセスで、教科等で身に付けた資質や能力、意欲や態度を十分に発揮できるように指導する。
- ・生徒の一連の学習活動のプロセスが、一つの問題解決的な学習の物語(ストーリー性をもった)ものにする。

## 5 テーマ

本校の「総合的な学習の時間」の総称名は「きぬかけのみち」である。

学年のテーマとして、

第1学年のテーマ；「わが町“きぬかけのみち”を探索しよう。／」

第2学年のテーマ；「“きぬかけのみち”から社会をみよう。／」

第3学年のテーマ；「“きぬかけのみち”から自分を見つめよう。／」

これらの学年テーマは、生徒自身が実生活を営んでいるこの衣笠という地を意図的、計画的に意識し、そこから発想の輪を広げ、そこで見(観・視)たこと、聞(聴・尋)いたこと、感じたこと、知ったこと、思ったこと、そして、考えたことをもちかえり、また、「きぬかけのみち」に戻り、自分自身との関わりを考えるきっかけとする。

そして、自分の生き方の拠り所としてほしいという願いが込められている。

## 6 指導方法

- (1) 第1学年；学級単位で学習活動を行う。
- (2) 第2学年；グループ単位で学習活動を行う。
- (3) 第3学年；個人単位で学習活動を行う。

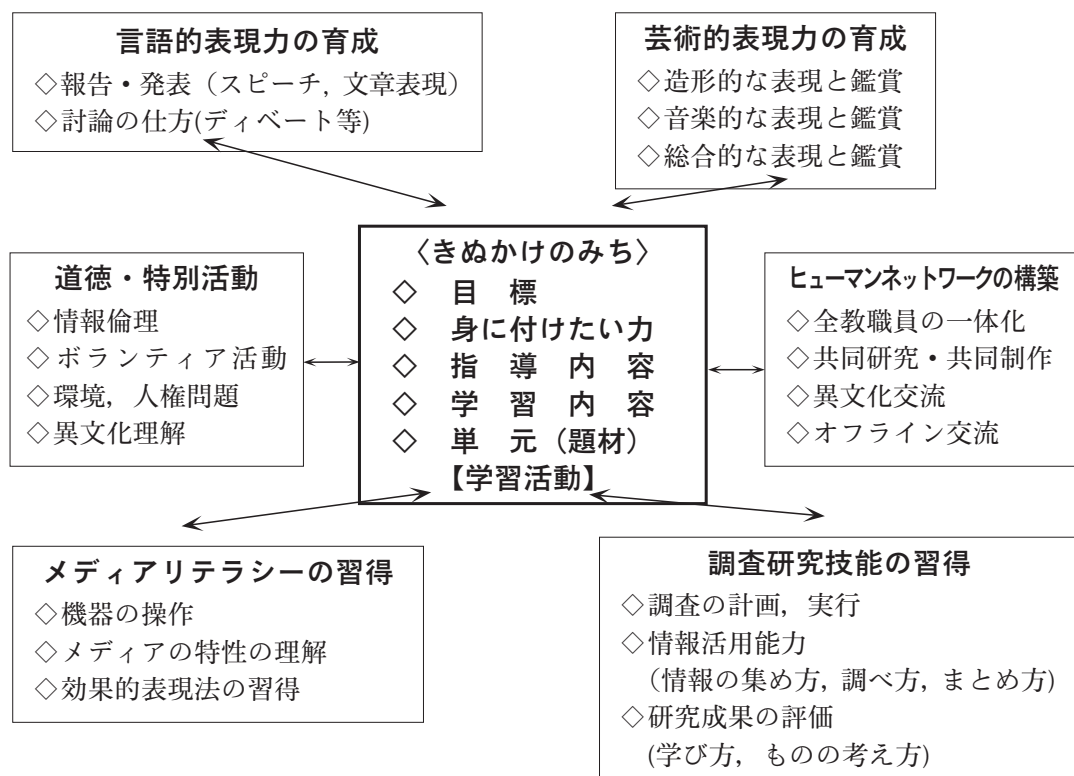
## 7 指導体制

学年体制と教科体制

## 8 教科等との相互環流（環流）[相互の関連性]

生徒が知の総合化，学校知と生活知の一体化（知の実践化）が深められ，どう生かされて働いたのかを再吟味・検討する。

### — 教科等との相互環流表 —



## §4 道 徳

### 1 指導目標

家庭や地域社会との連携及び豊かな体験を通じた道徳性の育成の重視し，道徳教育を進めるに当たっては，教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに，生徒が人間としての生き方についての自覚を深め，家庭や地域社会との連携を図りながら，ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。

### 2 道徳の時間

道徳の時間においては，道徳教育の目標に基づき，各教科，特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育との密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によって，これを補充，深化，統合し，道徳的価値及び人間としての生き方の自覚を深め，道徳的実践力を育成する。

## §5 特別活動

### 1 指導目標

望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。

### 2 学級活動

学級活動においては，学級を単位として，学級や学校の生活への適応を図るとともに，その充実と向上，生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行う。

### (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること。

生徒一人一人が話し合いや係活動を通して、役割を分担し、学級生活や学校生活の向上を目指す態度を育成する。

### (2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること。

個人として、また、集団や社会の成員としての資質を身に付ける自主的、実践的な態度を育て、心身の発達・健康を助け、自己を生かし、資質・能力を育成する。

### (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること。

学業生活において、個別的、継続的な指導を行い、自主的に学習する態度を育み、自己を生かし、よりよい将来の生き方と適切な進路選択ができる資質・能力を育成する。

## 3 生徒会活動

生徒会活動においては、学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動などを行う。

## 4 学校行事

学校行事においては、全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。

## §6 特別支援教育について

### 1 交流及び共同学習を推進する

交流については、「中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－総則編－」において次のように書かれている。

学校間の交流としては、例えば、近隣の中学校や校区内の小学校と学校行事、部活動、自然体験活動、ボランティア活動などを合同で行ったり、（中略）盲学校・聾学校及び養護学校などとの交流を図ったりすることが考えられる。これらの活動を通じ、学校全体が活性化するとともに、生徒が幅広い体験を得、視野を広げることにより、豊かな人間形成を図っていくことが期待される。障害のある幼児児童生徒との交流は、生徒が障害のある幼児児童生徒とその教育に対する正しい理解と認識を深めるとともに、同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもあると考えられる。

### 2 LD等支援の必要な子どもの教育

- 1 早期から子どもの学習等のつまずきや困っている状況に気づき、必要な支援を行う。
- 2 個々の学びの違いを考慮した授業の充実と、一人一人を大切にした学級集団作りを進める。
- 3 子どもの状況について、保護者と共に考え、関係機関との緊密な連携のもと、計画的・継続的な指導・支援を充実する。

#### ◆必要な教育内容を保護者とともに考える「個別の指導計画」の作成

保護者・関係機関との連携のもとに、ニーズに応じて「個別の指導計画」を作成し、組織的な取組の中で実行・評価・改訂を図り、系統的な指導・支援を行う。

#### ◆必要な支援を弾力的に行う全校的な指導体制の充実

「個別の指導計画」をもとに一人一人の教育課題と達成状況を明確にし、個々の課題解決に向けた学習内容の工夫や多様な指導形態を、校内委員会を中心とした学校体制の中で弾力的に進める。

◆障害のある子どもたちの地域での支援ネットワークづくりの推進

保護者・学校・関係機関・総合育成支援教育相談センター（育み支援センター）等の連携を密にするとともに、障害のある子どもたちのボランティア養成を進め、障害のある子どもの地域での活動を支える支援体制を充実する。

※LD等支援の必要な子ども

普通学級に在籍するLD（学習障害）・ADHD（注意欠陥多動性障害）・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）の子ども

— 週 授 業 時 数 表 —

区分	必修教科の時間数										業選択教科に充てる授業時数	総合的な学習の時間の授業時数	道徳の授業時数	特別活動の授業時数	授業時数	育成学級自立活動の授業時数	補填	週合計時数	年間総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	英									
1 学年	5	3	④	3	1.2	1.2	2.6	2	③	0	1 (65H)	1	1	0	1	29	1080		
2 学年	4	3	4	3	1	1	2.6	2	4	1.4	1 (70H)	1	1	0	0	29	1085		
3 学年	3.4	3	4	3	1	1	2.6	1	4	3	1 (95H)	1	1	0	0	29	1056		
育情 成達	情緒2年	4	1	4	1	2	2	3	2	1	2 (1 随時)	1	1	3	生活1	29	1015 (随時)		
	発達1年	4	2	4	2	2	2	3	2	2		1	1	0	生活1				

※ ○の数字は少人数指導

※ 総合的な学習の時間の授業時数（ ）は、年間を通して「まとめ取り」をする。(980H外)

— 時 間 割 (日課表, 週時程表) —

第1学年

	月	火	水	木	金
1	国語	社会	理科	保体	英語
2	国語	社会	理科	保体	道徳
3	国語	数学	理科	技・家	学活
4	国語	数学	音楽	技・家	総合
5	国語	数学	美術	英語	学裁
6	社会	数学	保体 音楽美術	英語	補填

第2学年

	月	火	水	木	金
1	国語	社会	理科	保選	英語
2	国語	数学	理科	技・家	道徳
3	国語	数学	音楽	技・家	学活
4	国語	数学	美術	英語	総合
5	社会	数学	保体	英語	選択
6	社会	理科	保体	英語	学裁

第3学年

	月	火	水	木	金
1	国語	数学	理科	技・家	学活
2	国語	数学	音楽	英語	総合
3	国語	数学	美術	英語	選択
4	社会	数学	保体	英語	選択
5	社会	理科	保体	英語	選択
6	社会	理科	保国	道徳	学裁

- 音楽 (45H)
- 美術 (45H)
- 保体 (85H)
- 保体 (5H球技大会)

- 選択 (0H)最低
- 総合 (100H) 最高
- 総合 65H (まとめ取り)

- 保体 (20H)
- 選択 (15H)

- 選択 (50H)最低
- 総合 (105H) 最高
- 総合 70H (まとめ取り)

- 保体 (20H)
- 国語 (15H)

- 選択 (105H)最低
- 総合 (130H) 最高
- 総合 95H (まとめ取り)

## 年間行事計画

期	月	学 校 行 事					生 徒 会 活 動		そ の 他	
		儀 式	学 芸	体 育	保健・安全	旅行・勤労生産	生 徒 会	部 活 動		
フ ァ ィ ス ト	4	始業式 入学式			身体測定 歯科・内科検診 心電図(1年) 眼科検診 検尿	大掃除	対面式 生徒会オリエン テーション 学級委員選挙 認証式	部活動紹介 部活動加入 春季大会開会式 春季大会公式戦 (～5月)	学力定着調 (国,社,数,理,英) 学年集会	家庭訪問1年 PTA総会 進路保護者会
	5	全校集会			内科検診 歯科検診 再検尿 避難訓練	花背山の家 1年 修学旅行3年	生徒集会 身だしなみ点検 あいさつ運動 美化点検	部集会	休日参観 Spring Test	進路保護者会・ 修学旅行説明会 学級懇談会 PTA総会 小中連絡会
	6	全校集会		合同球技大会 (育成学級)	耳鼻科検診 心臓二次検診 エアコン 使用開始		生徒集会		学習確認 プログラム (3年;1stStage) 教育相談 Summer Test	教育実習
	7	全校集会	人権学習 科学センター (育成学級)	スポーツフェス ティバルI (球技大会)		大掃除	生徒集会 生徒総会 ベル着運動	夏季大会開会式 夏季大会公式戦	学年集会 本来校交流 (育成学級)	個人懇談 夏期懇談会 (地域パトロール)
	8	全校集会			ストープ点検	合同キャンプ (育成学級) 大掃除	SANKON (北・上生徒会 交流) リーダ講習会 生徒集会		学習教室, スク ールガイダンス高校 体験学習, オープ ンキャンパス), 学習確認プログ ラム(3年;2nd Stage) 2年 Pre Stage (1)	(地域パトロール) 家庭訪問 小中連携会
	9	全校集会		スポーツフェス ティバルII (体育大会)	身体測定	全校美化 チャレンジ体験 (2年)	生徒集会	秋季大会公式戦 (～11月)		
セ メ ス タ ー	10	全校集会	文化学習 発表会 (合唱コンクール・ 文化部発表) 読書週間		検尿		生徒集会 あいさつ運動	文化部発表会 部活動冬時間 (10月第4週～)	Autumn Test 学習確認 プログラム (3年:3rd Stage)	進路保護者会 小中連携会 支部授業研究会 パイロットスク ール報告会 (研究指定)
	11	全校集会	集団読書	合同運動会 (育成学級)	再検尿 ストープ設置	2年校外学習	生徒集会 生徒会役員選挙 学級委員選挙 認証式 ベル着運動		教育相談 進路見学会 (育成学級) Winter Test	
	12	全校集会	人権週間 人権学習 科学センター 学習(1年)	スポーツフェス ティバルIII (衣笠マラソン)		美化週間 大掃除	生徒集会		学習確認 プログラム (3年;4thStage) (2年; PreStage(2)) 1年 Basic Stage 学年集会	個人懇談会
	1	全校集会	カルタ大会 (1年・2年)		避難訓練	大掃除	生徒集会 遅刻0運動		学年集会 研究会テスト (美, 保体) Final Test(3年)	新入生 入学説明会
	2	全校集会	合同作品展 (育成学級)		性教育		生徒集会	部活動夏時間 (2月第3週～)	私立高校入試, 公立高校適性・ 推薦検査, 教育相談(1・2年) Final Test (1・2年)	年度反省 小中連絡会
セ メ ス タ ー	3	全校集会 卒業式 修了式			ストープ返却 安全点検	美化週間 大掃除	生徒集会		公立高校一般 入学検査 学年集会	